

令和8年度自転車通学に関する調査報告書（令和8年5月1日時点調査）【概要版】

保健体育課

令和8年8月18日

1 調査概要

（1）調査目的

令和8年度5月1日時点の県内公立中学校、高等学校及び特別支援学校（中学部・高等部）における自転車通学の状況を把握するとともに、各校におけるヘルメット着用の条件化に係る取組やヘルメットの着用状況等を確認する目的で実施した。

（2）調査対象

県内公立中学校・高等学校・特別支援学校

（3）調査時期

令和8年5月1日時点

2 調査結果の概要

○着用率：通学に自転車を利用する人数のうちヘルメットをかぶっている人数の割合

○条件化：自転車通学者が在籍する学校数のうち条件化した学校数および割合

県立学校の着用率・条件化率は大幅に向上

○着用率 令和7年度 8.8% → 令和8年度 47.3%

○条件化率 令和7年度 1.7% → 令和8年度 93.4%

（1）着用率から見た傾向

□学年別の着用率（県立学校）

	中1	中2	中3	高1	高2	高3	高4
県立高等学校				57.9%	43.3%	39.8%	34.0%
県立特別支援学校（中）	—	100.0%	100.0%				
県立特別支援学校（高）				92.7%	90.2%	93.5%	
県立学校計	—	100.0%	100.0%	58.2%	43.7%	40.3%	34.0%

・学年が上がるほど着用率は低下

→入学前の保護者や生徒への説明が効果的だったと考えられる。

□利用区間別の着用率（県立学校）

	自宅⇄学校	自宅⇄駅、駅⇄学校
県立高等学校	55.7%	32.8%
県立特別支援学校（中）	—	100.0%
県立特別支援学校（高）	95.7%	89.7%
県立学校計	56.0%	33.6%

・「自宅⇄学校」で利用する生徒の着用率が高い。

→電車利用者は、ヘルメットの保管や携行に課題があると考えられる。

□条件別の着用率（県立学校）

条件化実施済み	全学年一斉	68.1%
	一部学年	26.8%
	計	57.5%
条件化未実施		17.7%

・条件化を実施した学校の着用率が高い。

→学校として方針を示すことの重要性があると考えられる。

（２）主な取組事例

□学校方針の明確化

□保護者への働きかけ

□生徒への継続的な指導

□生徒主体の活動

□地域との連携

（３）各学校から寄せられた課題

・「暑い」「髪型が崩れる」

・「ヘルメットの保管場所がない」、「持ち運びが不便」

・「努力義務」であることによる指導の難しさ

→一方で、市町村立中学校は１００％の着用率である。

（４）調査から見てきた着用率向上の可能性

①方針を明確に示すとともに重要性を伝え続けること

②保護者との連携を強化すること

③生徒主体の活動を推進するとともに着用しやすい環境づくりをすること

→学校全体で「ヘルメットを着用することが当たり前」という環境づくりが大切。

３ おわりに

県立学校におけるヘルメットの着用率は、昨年度から大きく向上した。

一方で、依然として課題は残されているものの、今回の調査結果は、学校として方針を明確に示し、継続的に取り組むことが生徒の行動変容につながる可能性を示している。

自転車ヘルメットの着用は、規則のための規則ではなく、交通事故から生徒のかけがえのない命を守るための取組である。

各学校においては、今回の成果に自信を持つとともに、「生徒の命を守る」という共通の目的のもと、他校の取組事例や本提言も参考にしながら、今後も取組を継続・発展していただきたい。

また、県教育委員会としても、各学校の取組を支援しながら、自転車ヘルメットの必要性について理解を深める啓発や、着用を後押しする環境整備を進め、生徒の命を守る取組のさらなる充実を図っていきたい。